

ユーザー要望が開発の力に

シャッターを核とした重量製品に特化、大手でも困難な特殊製品の開発を武器に、安定した業績を維持する小俣シャッター工業。原材料価格の高騰や競争の激化など、シャッター業界を取り巻く環境は、厳しさを増している。強風の只中にありながらも、小俣雅宏社長は技術力に絶対の自信を見せ、重量シャッターの「どこどっしり」と構える。一方で、ユーザーの要望に耳を傾けて、さらに安全で使いやすい製品の開発に余念がない。

重量シャッターを中心に、防煙垂れ壁、大型電動ドアなどの鋼製建具を、製造から施工まで一貫して手がける。「一般的な重量シャッターは、設計折込はそれほどないが、大きな製品や特別な仕様などの場合は、設計段階で製品名を指定してもらえることが多い」と自信を持つ。その自信の源には「施工能力を含めて、大手メーカーでもできないことが一貫してできる」ことがある。



小俣シャッター工業(株) 社長 小俣 雅宏氏



海外に目を向けて 輸入販売も視野

艦艇上のヘリコプター格納庫や次期南極観測船への特殊シャッターの採用実績が、製品能力の高さを実証している。強風や寒さ、揺れなどの厳しい環境下での使用に耐えられる品質は、建築分野でも大きなアドバンテージとなる。

なってしまう。その課題を解消した「オマオープン」が好評だ。防火シャッターは、袖扉がセットとなるため、どうしても中間柱が必要だったが、「オマオープン」は、袖扉と運動してシャッターが開閉できるため中間柱がなく、動線の邪魔にならないため、自由なデザインが可能となる。袖扉は90度、180度回転するタイプと両側扉タイプがあり、さまざまな場所の防火シャッターに採用できる。「今後改良を加えていく」と、製品の進化・発展に余念がない。

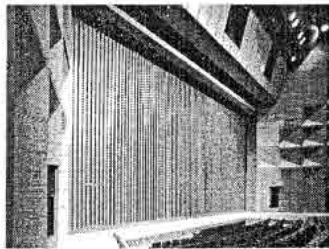
「お客様からの要望」だという。「製品の歴史を振り返っても、設計者やゼネコンを含めたユーザーからの声を受けて開発、改善をした例が多い。「このような工夫ができないか」という要望に試行錯誤を繰り返してきた結果だ。ユーザーサイドから、もっといろいろな要望をぶつけてきてほしい。それがみなさんが望む製品の開発につながる」。設計事務所と共同開発した製品もあり、独りよがりではなく、あくまでユーザーの視線でニーズに合った製品を生み出していくという姿勢は一貫している。

2001年、業界では初めて全店所一括でISO9001の認証を取得した。「工場だけ取得する会社が多かったが、メンテナンスまで品質を保証することが、一つのポリシーでもあった。製造だけでなく、すべてにおいてお客様との信頼を確保したい」。ことし創業60年を迎え、1月に本社を引っ越し、心機一新、新たなスタートを切った。「これまでの実績の上にあぐらをかかず、海外にも目を向けて積極的に国内に輸入販売することも考えている」。欧州のデザイン力と機能を融合した製品にも注目、国内に新しい風を持ち込もうとしている。

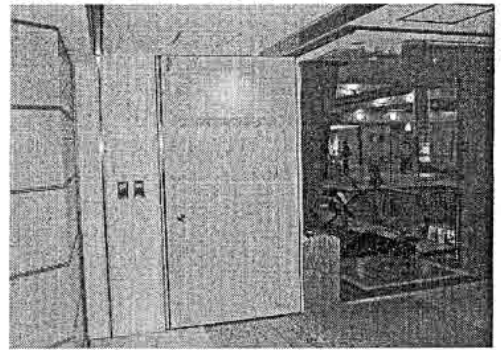
重量製品に実績とノウハウ

会社概要

- ▷ 創立=1948年4月
- ▷ 本社所在地=〒114-0022 東京都北区王子本町2-23-9
- ▷ 電話番号=03-3905-6211
- ▷ ファクス=03-3905-6271
- ▷ URL=http://www.omata-s.co.jp/
- ▷ 生産設備=さいたま工場 (さいたま市中央区下落合7-1-21)
- ▷ 年間生産能力=防火シャッター・10万平方m、その他・5万平方m



劇場用可動防火壁 (ファイヤーカーテン)



避難扉と連動したシャッター「オマオープン」。空間の意匠性を損なわず、設計事務所からの評価も高い。